

普及現地情報



発信年月日：令和5年（2023年）3月17日
所属名：高島農業農村振興事務所農産普及課
番号：H22019
部門分類：160（果樹）
発信者名：今村

令和4年度高島いちじくの振り返り

高島市内のイチジク栽培面積は約1.7ha、栽培者は20名で、そのうちJAに集荷されるものだけが「高島いちじく」として、市場および生協に出荷されています。R4年は8名が4.2tを出荷され、3年間で出荷量は2倍に増加しました。販売単価は3ヶ年で1.07倍となり、生産努力と検品により、評価は高まっています。生産者も新たに2名増えました。

このたび、2月に実施したR4年度高島いちじく反省会において、生産者の取組成果を共有しました。

①植栽後10年が経過し、凍害や病虫害被害を受けた樹でも、主枝を新たに更新・育成し樹勢を強化することで園が甦っています。



被害主枝を更新した樹



新規生産者に経験を伝える園主

②すべて露地作であるために、秋の連続降雨があると収穫ができないと思われていましたが、市場出荷向けの収穫基準の徹底、ほ場内で被害果の除去を徹底することで露地作でも10a当たり1.4tと高い収穫量が得られています。

③こうした取組により、獣害や露地作のために少し減収しても、全量JA出荷で10a当たりの売上は100万円以上が見込めます。直売所出荷と組み合わせる人は販売単価が高くさらに売上向上が見込めます。

露地作であるために開園コストが少なく、市場出荷基準にあわせて、ややかために収穫することで収穫後の廃棄や収穫時の苦労がかなり軽減されることから、有利なJA園芸品目として引き続き推進していきます。